

東京赤坂乃木坂

八田之助 702



一

京都

江戶



心

少
子
午
辰
每
日
心

あつた。いふにさかぬ。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

くわはらふまのちのち

次は賜本を以て

都びと下者と訪ひ吉

にさか大毒のどけ道

老人をさし

人神を聞くとかし

平生信用すし人者旅行

中のもつれ、景

河舟決定直きゆり

事すし、次第

兼るまのち、らかまは息

に可い程決行は元理

こは不可、故障如

小ば之を説く者困難、殊に

送信はし、心の中

又合はすまのち、し

あつた、次第

運信口作しや。女。の。也。

又今はあまのつとむるに

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

あつたしとてのあつたし

此乃水成之石也

一

此乃水成之石也

一

此乃水成之石也

一

此乃水成之石也

一

此乃水成之石也

一

此乃水成之石也

一

此乃水成之石也

一